TEI 鼎談 DAN
学問と職業のカンケイから、大学進学を考える本
あなたは、まだ何にだってなれる。

同志社大学 心理学部

脳・神経科学や精神生理学などの基礎的領域から、臨床心理学、社会心理学、発達心理学などの応用領域に至るまで、幅広い分野から総合的に学びを深め、研究と実践のバランスと、広い視野と豊かな発想力を持った人材を育成します。





■大学生
佐田佳奈恵 さん



■先生
及川昌典 先生



■卒業生
久田智之 さん

CONTENTS

●プロフィール　●大学生活について　●就職活動、仕事について
●5年後に向けて　●高校生へのアドバイス　●大学構内のお気に入りのスポット

●プロフィール

同志社大学の心理教育はとても歴史があると伺いました。



■先生
同志社大学は 1875 年に私塾「同志社英学校」として創立しました。その時の開講科目の 1 つに「性理学」があり、これが現在の「心理学」にあたります。その後、1927 年に文学部哲学科の傘下のもと心理学専攻が設けられ、本格的な研究と教育がスタートしました。そこから 90 年の歴史と伝統を受け継ぎ、現在に至っています。
学部として独立したのが 2009 年で、もともと文学部傘下だったこともあるため文系学問のイメージを持って入学される人も少なからずいるようです。しかし、実際に行われる心理学部の授業は理系の要素も強く、“文理両道” で専門的な学びを深めていきます。

■大学生
私は文系出身だったこともあり、そのイメージを持って心理学部に入学しました。ですから、まさか実験用の白衣を着る授業があるとは想像すらしていませんでした。

■先生
佐田さんのように驚かれる学生もいますよ。久田くんも高校時代は文系だったのかな？
■卒業生
僕は理系でした。入試も理系科目で受験しました。
■先生
本学部の入試は、文系科目もしくは理系科目を選択して受けることができます。いずれにしても心理学を学びたい人であればどちらもウエルカムです。

及川先生が研究されている専門分野を教えてください。

■先生

社会心理学のフィールドで「無意識」について研究しています。誰でも「他でもない自分自身の心の働きが思い通りにならないのはなぜ？」という問いを抱いたことがあると思います。そうした素朴な疑問に答えるところから「無意識」の研究はスタートします。
人は「体」が傷つくことには敏感ですが、「心」に関しては残念ながらその限りではありません。しかし、心は体よりも傷つきやすく、失敗・拒絶・孤独などからくる心の傷は、気づかずに放っておくと悪化し、健康や幸福感、人間関係にも深刻な影響を及ぼします。そうしたストレスや不安への対処、また、失敗から立ち直るために、やる気・自信を維持するためには、今まで気づかなかった「無意識」、つまり心の働きの大切さを理解することが重要です。

佐田さんは及川先生のゼミで学ばれているのですか？

■大学生
はい。入学後、様々な授業を受ける中で今先生がお話しされた「無意識」に興味を持ちました。3年の秋学期からプレゼミとして研究室に入り、4年生になると卒業論文の作成に向けた本格的な研究が始まります。
■卒業生
僕も及川先生のゼミの出身です。当時研究していたテーマは佐田さんと同じく無意識についてですが、その中でも「幸福感」について研究していました。

久田さんが現在お勤めされているところは？

■卒業生
2015年の4月に広告会社の株式会社電通北海道に就職し、現在はWebを担当する部署でクライアント企業のホームページやインターネット広告、デジタルの技術を活用したキャンペーンの企画などを手掛けています。
■先生
久田くんは在学中からプレゼンテーションのスキルがずば抜けて高くて、当時から広告の要素が入った発表を積極的に行っていました。
■卒業生
お恥ずかしいです。当時、自分の好きなテーマを決めてプレゼンをする「心理学実験プロジェクト演習」という授業があり、僕は広告心理をテーマに取り組みました。それがきっかけで今の仕事に

興味を持ったんです。広告と出会うきっかけになった運命的な授業でした。

●大学生活について

同志社大学の心理学部を志望した理由を教えてください。



■大学生
私はテレビドラマの『科捜研の女』が大好きで、いつも憧れながら見ていました。そして受験期になった時、同志社大学のパンフレットで心理学部のページに目をやると警察の科学捜査研究所で仕事をされている先輩の話が載っていたんです。科捜研は科学的なイメージがあり、理系の人しか仕事に就けないと思っていましたが、文系出身者でも心理学部で学べばその道に進めるとわかり進学を決めました。

■先生
事前にリサーチした甲斐がありましたね。

■大学生
はい。そこでさらにカリキュラムに目を通すと「犯罪心理学」という科目があったので、サスペンスが大好きな私としてはすごく好奇心をかき立てられました。

■先生
久田くんが志望した理由は？

■卒業生
受験勉強をしている時に読んだ加藤諦三さんの本がきっかけで心理学を学びたいと思いました。社会学者の方ですが、人が抱える悩みや困っていることを俯瞰的に見て物事をとらえるという心理学的な内容の本で、当時話題になっていたこともあり、「心理学とはどういう学問だろう？」と興味を持ちました。同志社大学を選んだのは、心理学教育に長い歴史があるからです。そうしたバックボーンがある大学で学べるのはやはり魅力的でした。

■先生
久田くんもちゃんとリサーチして大学を決めていますね。とても大事なことだと思います。歴史と伝統があるという点では本学の心理学教育は確たるものがありますから、それに気づいた人は「すごい！」と感じるところはあるでしょう。

入学後、実際に心理学部の授業を受けられた印象は？

■大学生
文系学問のイメージがありましたので、講義や授業を受けてノートをとりながら勉強するんだろうと思っていました。しかし、実際は統計学を用いる授業や実験などもあり、正直驚きました。

■卒業生
僕の在学中はラットによる動物実験の授業がありましたが、佐田さんは受けられました？

■大学生
はい。1年の時に受講しました。レバーを押すとエサが出る仕組みのケージにラットを入れ、動物が学習していく過程や反応を観察しました。

■先生
他にも、脳波、皮膚電位、心拍などの生体反応から心の状態を探る精神生理学の実験、知能検査や

発達検査を実施する発達心理学の実験、カウンセリングの効果を検証する臨床心理学の実験、コンピュータプログラムや視線計測を用いる認知心理学の実験など、心理学部では、様々な実験実習や授業を通じて多彩な心理学研究法について学びます。

久田さんが印象に残っている授業は何でしょう？

■卒業生

先ほどお話しした「心理学実験プロジェクト演習」以外では、「乳幼児心理学」の授業が興味深かったです。この授業を受けるまでは、赤ちゃんは何も考えずに動いていると思っていましたが、それぞれの行動にはちゃんと意味があるとわかりました。それらを学問的に結びつけて学ぶのがとても面白かったです。

■先生

心理学部には乳幼児の心理を専門に研究されている先生もいます。他にも基礎から応用まで、心理学の幅広い領域をカバーする、たくさんの先生がいらっしゃいますので、入学後の授業を通して興味を持った学生はゼミでさらに専門的に学べます。

及川先生の授業を受けた印象は？

■大学生

初めて先生の授業を受けたのは 1 年生の一般教養の講義でした。心理学の先生だけあって「トーク力がすごい！」と思ったのが最初の印象です。座学でしたが、たくさんの学生を前に「あなたたちは今こう思っているでしょ？」「でもね、実はそうではないんですよ」と自然な流れで切り替えしながら話を進められるので、授業全体が“物語”のように感じられるんです。毎回楽しみにしながら受講していました。

■先生

ありがとう。

■卒業生

僕は「社会心理学」の科目で初めて先生の授業を受けましたが、正直、最初の印象はすごく怖かったです。

■先生

そう？ 怖かった？

■卒業生



いざ授業が始まると場がすごく引き締まり、ビシッと授業が展開されていきます。でも、その中で笑いが起こる場面もありますし、学生を惹きつける話術もあったりするので、自然と先生の話に入っていけるんです。大学の授業は高校と比べれば長いので時には退屈に感じることもありますが、及川先生の授業は 90 分間フルで毎回楽しく受けることができました。

■先生

心理学という学問は授業内容そのものが興味深いですから、聞いていると「そうなのか！」と思えることがたくさんあります。心理学を学びたくて本学に入った皆さんが受けることになる授業は、大学生活や就職活動の役に立つだけでなく、生涯にわたり大切な“物語”になるはずです。

●就職活動、仕事について

卒業生はどういった分野で活躍されていますか？

■卒業生

僕が知っている範囲で言いますと、同学年で就職した人はとても幅広い分野で活躍しています。銀行、不動産会社、市役所、あとは楽器メーカーで仕事をしている人がいます。

■先生



久田くんの言う通りで、確かに業種としては幅広いですね。「心理学部を卒業するとどんな分野に就職できますか？」と聞かれることがよくありますが、人の心は社会の根底にあるものですので、その理解はどんな仕事に就いても役に立ちます。一般就職の学生は、メーカー、金融、商社、マスコミ、公務員、病院、製薬会社など、様々な分野で活躍しています。また、大学院へ進学して臨床心理士の資格をとりカウンセラーになる学生や、科学捜査研究所や鉄道総研などで研究職につく学生もいます。

■卒業生

僕が就職活動をしていた時に感じたのは、「心理学部の学生」ということで面接官は結構関心を持ってくれることが多かったです。“食いつき気味”で学部でどういったことを学んでいるのか、とても興味を持って聞いてくれました。心理学部は他の学部・学問分野全体でみると母数が少ない部類に入ると思いますので、その分、採用する企業側もかなり関心を持って接してくれるのかもしれません。

■大学生

先輩たちの多くは希望されたところに就職されているのでしょうか？

■先生

おしなべて学生が優秀だということもあると思いますが、だいたい皆さん、希望された業界に就職していますね。広告会社を希望した久田くんもそうですし。佐田さんは春から本格的に就職活動が始まるけど、どういったところを希望しているの？

■大学生

入学する前は“科捜研”一本でした。しかし、心理学の授業で学んだことはいろいろな分野で応用できるとわかりました。今は人材やテーマパークの事業に興味があるので、そういったところを中心に就職活動をするつもりです。

心理学部で人の心について学んでいくうちに、人と接する楽しさを感じ、「自分がこういう働きかけをしたら、相手はこう変わるのでは」といったことも考えながら行動できるようになりました。そういうことを仕事でも活かしたいと考えた時、人の人生に携わる・人を笑顔にできるような職に就きたいと思うようになりました。

久田さんが数ある業種の中で広告会社を選ばれた理由は？

■卒業生

広告の仕事は人と人とが関わりを持てること、つまりコミュニケーションを生み出す存在です。僕はまずそこに魅力を感じました。自分が企画したイベントで人々が楽しんでくれたり、笑顔になってくれれば、とても素晴らしいことですし、それを実現できるのは広告会社だと感じたんです。

■先生

卒業生が連絡をくれて、「大学での学びが役に立っている」「人の心にも関心を持ち続けている」と

いう話を聞けるとやっぱり嬉しいですね。もちろん“人の心”への関心の持ち方や示し方は人それぞれですが、おそらく久田くんはそういった点で働くことの意欲を広告会社に見い出し、今も維持できていると感じます。そしてこれから就職活動をスタートする佐田さんも、人の心に関心を持っているからこそ、人材に関わる仕事に興味を示されていると思います。

仕事をする上でのやりがいは何でしょう？

■卒業生

自分が制作に携わったもの、例えばポスターでもCMでも何でもいいんですが、それが世の中に出て人に見られるのが広告の仕事です。ですから、自分が中途半端な気持ちで世の中に出したものは、当然、中途半端な状態で人に見られてしまいます。常にそう思って仕事をしていますから、「ここまで考えた！」「やり切った！」と納得できるものを作った時は充実感がありますし、それが街中に出まわり、大勢の人に見られてレスポンスがあった時は「また次も頑張ろう！」という気持ちになります。

● 5年後に向けて

将来の目標や夢について教えてください。



■大学生

将来的には人材教育の場で活躍できればと考えています。大学に入り接客業のアルバイトをした時、お客さんへの対応の仕方について先輩から教わりました。その教育を受けたことで、私自身、人との関わり方が大きく変わったと感じることができましたので、将来は自分より年下の人たちが前向きになれるように、何かを伝え、何かを感じてもらえる教育ができればと思っています。

■先生

無事に就職活動を終えて、希望を叶えられる仕事に就けるといいですね。

■大学生

ありがとうございます。頑張ります。

■先生

久田くんの将来の夢は？

■卒業生

現在、Web広告を担当する部署でデジタルに関わる仕事をしていますが、今後はもっと幅広く業務に携わっていきたいです。私が勤める会社には、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・Webを扱う各部署があり、さらにイベントを企画するところもあります。それら全体を見渡しながら各メディアを上手く活用する企画を立て、なおかつ自分が統括するといった、いわばプロデュース的な立場で仕事を動かしていくのがこれからの目標です。

先生が今後取り組もうとされていることは？

■先生

研究と教育が大学教員の大きな２つの仕事ですが、まず研究面で言いますと、私の分野の研究は共同研究が多いです。共同で様々な取り組みを行い、その成果を国内外の研究者と共有できることに大きな喜びを感じています。最近では「意識と無意識」の心の働きについて日欧米で比較を行うことを計画しています。この研究は、今高校生の皆さんが大学に入学される頃、ちょうど軌道に乗る

予定ですので、ぜひ心理学部に入って私のところに来てください。一緒に研究してくれる人、絶賛募集中です。

■卒業生

先生のゼミは楽しいですから、僕からも高校生の皆さんにお薦めします。

■先生

教育面においては、やはり面白い授業をどんどん学生に提供したいと考えています。私は小学・中学・高校・大学・大学院のいずれでも自分が受けたいと思った授業に恵まれてきました。そのお返しとして、より良い授業をクリエイトできればと思っています。

●高校生へのアドバイス

こちらの学部をめざす高校生にアドバイスをお願いします。

■卒業生

僕が高校生の頃は、将来この仕事に就きたいからこの学部に行くんだとイメージした上で進路を決めなきゃと思っていました。でも振り返ると、大学に入ってから多くのことをちゃんと勉強していると、将来本当にやりたいことに出会えるんだと気づきました。

■先生

久田くんが広告に興味を持ったのも大学の授業がきっかけだったよね。

■卒業生

はい。ですから将来自分が何をやりたいのか、特に仕事については高校時代にイメージできていなくても大丈夫です。それよりはむしろ、今自分が何に一番興味があるのかを考え、それを元に学部や大学選びをするのが一番です。何となく受験して、何となく入学しても、大学は楽しくありません。自分が興味のある学問に触れてこそ、充実した大学生活を送れると思います。

■先生

今はどこの大学もパンフレットやホームページが充実しているので、結構学部の詳しいことまでわかるはずです。ですから、ちゃんと自分の興味と照らし合わせてリサーチすれば、きっとよい進路選択ができるでしょう。

佐田さんはいかがでしょう？

■大学生

高校時代を振り返ると、私のまわりには「文系だから」「理系だから」といって、自分の受験に関係のない科目を切り捨てる人がいました。これはもったいないことだと思います。私は文系でしたが、入学して「精神生理学」という授業を受けた時に高校で生物を勉強しておいて本当によかったと感じました。

■先生

高校で受ける授業はちゃんと大学につながっていますから。



■大学生

実際、高校時代に生物を勉強しなかったという理由で「精神生理学」の授業をやめてしまう人もいました。せっかく興味深い授業を受けられるのにもったいないことです。ですから、大学での学びを充実させるためにも、高校ではどの科目も最低限の基礎知識は身につけておくのがいいと思います。

最後に先生からアドバイスをお願いします。

■先生

最初にもお話ししましたが、心理学は“文理両道”で学ぶ学問で、どちらの発想や手法も必要とするものです。心理学では脳・神経科学、生理学などに関する分野も扱います。理科、特に生物について興味関心や基礎学力があれば、心と身体の関係について一層深く学ぶことができます。また、心理学ではデータを分析することで結論を導く、統計学の手法や知識が必要になります。数学的な論理的思考力があると安心です。他にも、人の心の問題を理解するためには、現代の社会問題や、歴史、国際情勢など、幅広い視点から考えるための基礎知識が必要になります。心理学部では英語の書籍や論文を読み込む機会も多いので、英語能力も大切です。また、論文に書かれていることを正確に読み取り、自らの実験や調査で得られたデータを的確に解説するためには、国語の基礎学力が求められます。高校でしっかりと勉強しておくと、大学での学びも充実したものになりますので、ぜひ頑張ってください。意欲ある皆さんの入学を心よりお待ちしています。

●大学構内のお気に入りのスポット

■先生

心理学部がある京田辺キャンパスでお気に入りの場所はどこかある？

■大学生

私は「Latte（ラッテ）」というカフェテリアがすごく好きです。美味しいパフェも食べられますし、試験が終わった後やそれ以外でも事あるごとに理由をつけて通っています（笑）。

■卒業生

「Latte」は他の飲食スペースとは違った雰囲気があるよね。

■大学生

そうなんです。モダンな部類に入るので、オシャレな気分を楽しみつつ、ちょっとした空き時間を優雅に過ごすならぴったりの場所です。

■先生

久田くんがお気に入りだった場所は？

■卒業生

正門を入ってすぐ左に「交隣館」という棟がありますが、その前のベンチでくつろぐのが好きでした。在学中は読書をしたり、授業後に行き交う学生の姿を眺めたりしていました。

■大学生

先生はどこが好きですか？

■先生

敷地内に飛鳥時代からの古墳群があるんだけど、知ってる？

■卒業生

えっ？ そんなところがあるんですか？

■先生

実はあるんです。

■大学生

知りませんでした。

■先生

横穴式の古墳とかがあって、授業や研究の合間にそっと行ったりします。歩いてすぐのところで非日常体験ができるので、いい息抜きの場所として散策しています。

●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

及川昌典先生

同志社大学心理学部准教授

ニュージーランド オークランドグラマースクール出身。千葉大学文学部行動科学科卒業。一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了（社会学博士）。日本学術振興会特別研究員 PD、米国ニューヨーク州シラキュース大学心理学部および和蘭ユトレヒト州ユトレヒト大学心理学部での博士研究員を経て現職。社会心理学のフィールドで「意識と無意識の心理学」を専門に研究。

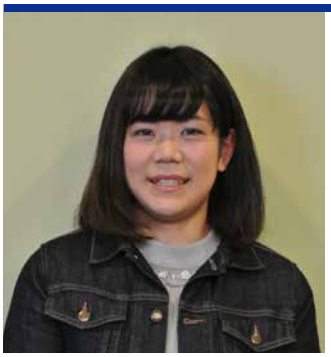


■卒業生

久田智之さん

株式会社電通北海道コミュニケーションデザイン局デジタル・ダイレクトビジネス部勤務

北海道札幌西高等学校出身。同志社大学心理学部心理学科卒業。大学時代は金銭的消費によって得られる人の幸福度について研究。広告会社に就職後は、デジタル技術を活用したキャンペーンの企画や提案を中心に、クライアントのニーズに応える広告制作を手掛けている。



■大学生

佐田佳奈恵さん

同志社大学心理学部心理学科 3 年生（2016 年度取材当時）

私立甲南女子高等学校出身。高校時代に警察の科捜研（科学捜査研究所）の仕事に憧れ、心理学部への入学を決意。様々な授業を受ける中で人間の「無意識」に興味を持ち、3 年次秋学期からゼミでの研究をスタート。将来は人材教育に関わる分野への就職を希望している。